

地域連携パスをご利用ください。

地域連携パスとは

当院で手術や処置などの治療を受けた後、お近くの連携医（かかりつけ医）と当院医師が連絡を取り合い、力を合わせて標準治療を継続していくための一連の書式です。

パス=Path はもともと「小道」という意味で、今後の治療計画を指し示した冊子のことです。患者さんご自身と連携医、病院医師の3者が診療情報や診療計画、受診スケジュールなどを、共有するために活用します。

パスには、「医療者用のパス」と「患者さん用のパス」の2つがあります。どちらにも今後の治療や通院スケジュールの表が入っています。このスケジュールに従って各病院、医院へ通院し、診療を受けていただきます。

また、「患者さん用パス」には「データ記入用紙」が入っています。病院医師も連携医も、そのデータをもとに診療を続けていきます。

パスの利点

当院への頻繁な通院が不要となり、通院の不便さや外来での長い待ち時間から開放されます。また、複数の主治医によるサポートを受けられる長所が生まれます。

パスを推進する背景

現在わが国は、がん対策基本法（平成19年4月1日施行）に則り、①がんの罹患率の減少、②がんの死亡率の減少、③すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の向上を目指しています。

愛知県でもがん対策推進計画が策定・推進されています。そのひとつとして、5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん）について、県内統一の地域連携クリニカルパスを作成し、県内のがん診療拠点病院と地域の医療機関において、運用することにより医療機関連携が進められることが期待されています。

当院も愛知県がん診療連携拠点病院として、地域連携クリニカルパスを通じ、がん医療における医療機関の役割分担と、地域のチーム医療の推進、それによる患者さんの療養生活の質の向上を目指しています。



<地域連携クリニカルパスが目指すもの>

- 愛知県のどこに住んでいても質の高い標準的な医療が受けられること
- 地域全体で支えるがん医療
- 生活を重視した QOL の高いがんの療養患者の負担軽減と、効率的な医療資源の活用